

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12471

研究課題名(和文) ストレングスの視点を活用した精神科看護実践トレーニングプログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a Training Program to Promote Psychiatric Nursing Practice Using the Strengths Perspective

研究代表者

河野 あゆみ (Kohno, Ayumi)

大阪公立大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：20401961

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、看護実践においてストレングスの視点を活用することのできる精神科看護師を育成するための、実用可能なトレーニングプログラムを開発することである。プログラムは、講義編と演習編で構成し、教材には概念分析の結果を踏まえて独自に作成したテキストとワークシートを用いた。対象者は、大阪府の精神科病棟に勤務する看護師とした。調査内容は、基本属性と成果指標で構成し、データ収集は、参加1ヶ月前・参加直前・参加1ヶ月後に行った。結果、18名の参加者を得られ分析対象は15名となった。分析の結果、参加前に比べ参加後にストレングス志向の支援態度が有意に向上した($p<.01$)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の対象者が本プログラムに参加した後に、ストレングス志向の支援態度を高めていたことから、本プログラムは看護師のストレングスの視点を活用した実践に必要な基礎的な能力を培うことに役立つものと考えられる。今後もデータを蓄積し、プログラムを洗練させると共に本プログラムを継続的に実施することにより、ストレングスの視点を活用した実践が出来る看護師を多数育成することができれば、精神疾患患者のリハビリの実現に寄与できる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a practical training program for psychiatric nurses to become able to use the strengths perspective in their nursing practice. The program consisted of lecture and practical sessions. As teaching materials, it used a textbook and worksheets originally created based on the results of conceptual analysis. The participants were nurses working on psychiatric wards in Osaka Prefecture. The study items were basic attributes and outcome indicators, and data were collected one month before, immediately before, and one month after participation. There were 18 participants, and 15 of them were analyzed. The results of analysis revealed a significant improvement in the nurses' strength-oriented supportive attitudes after participation compared with before it ($p<0.01$).

研究分野：精神看護学

キーワード：精神障害者 ストレングス 精神科看護

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省は精神保健福祉施策の改革ビジョンを策定し「入院医療中心から地域生活中心へ」というスローガンに基づく様々な取り組みを促進している。しかし、我が国の精神科病床における平均在院日数は275日(厚生労働省,2022)と、その日数は諸外国と比較すれば依然として高い。このような現状の背景には、従来の精神科看護が問題解決型思考を基礎としてきたことによる弊害が考えられる。とりわけ、精神科病棟で活動する看護師が患者の問題探しに偏ると、慢性疾患の一つである精神疾患をもつ患者は、いつまでも退院できないという事態を招くことが懸念される(萱間,2016)。よって、精神疾患をもつ人々の地域生活を支援する看護師は、看護の視点を患者のストレングスへと転換し、精神疾患をもちながら地域で暮らす人々の生活状況を見て学び(瀬戸屋,2011)ストレングスの視点を活かした退院支援を行うことが大前提になるといえよう。

精神医療におけるストレングスとは、精神疾患患者の生活や人生の再建と創造を目指すリカバリーを志向して、患者の強みを生かす視点および支援を促進しようとする概念である(田中,2013)。昨今では、このストレングスの視点的活用を目指すツールの開発やそれを活用するための解説が様々な専門職により行われていることから(小澤,2015;Gottlieb,2020)ストレングスという言葉自体は精神科看護師に広く認知されるようになった。しかしながら、Rapp & Goscha(2014)によれば、ストレングスモデルに基づく実践をしていると主張する支援者の報告には、単に肯定的リフレーミングをしているだけで当事者の人生経験の価値を低下させているものや、当事者の願いの達成よりも問題や弱さそして欠陥などに焦点を当てているものがあり、多くの人々はストレングスに関する理解が浅はかだといわざるを得ないという。そこで、精神科病棟に勤務する看護師が、精神疾患患者や患者を取り巻く環境の強みに着目するストレングス概念を正しく理解し、その視点を活用し看護を展開できるようになれば、患者が住み慣れた地域の中で将来の希望や展望を見出し自分らしく生きる「リカバリー」の実現に寄与できるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の全体構想は、厚生労働省が掲げる精神保健福祉施策の改革ビジョンに基づき精神疾患患者の地域移行を促進するために、医療施設において革新的な実践を行う精神科病棟看護師の育成システムを構築することである。それを達成するために、本研究では、ストレングスの視点を活用した看護実践ができる精神科看護師を育成するためのトレーニングプログラムを作成および試行し、実用可能なプログラムを開発することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) トレーニングプログラムの作成過程と概要

本研究では、プログラムの開発に先立ち精神障害者のストレングスに関する概念分析を行い、その結果に基づき、申請者が開発したテキストとワークシート(資料)を作成した。トレーニングプログラムの内容は、研究者間で内容妥当性の検討を行った。

トレーニングプログラムの構成は、【講義編】ストレングスの基本(2時間程度)、【演習編】ストレングスの視点を活用した実践(2時間程度)という2段階で構成し、Webを用いて行った。本トレーニングプログラムの実施は、研究代表者が中心となり行った。

(2) 調査内容と収集方法

調査内容は、基本属性と成果指標(ストレングス志向の支援態度尺度・一般性セルフエフィカシー尺度・トレーニングプログラムに関する評価(自作))で構成した。データ収集時期は、参加1ヶ月前(参加申込直後)・参加直前(【講義編】参加直前)・参加1ヶ月後(【演習編】参加直後)の3時点とした。

データ収集はいずれもGoogleフォームを活用したWeb調査を行った。

(3) 分析方法

プログラム実施前後の得点に向上がみられるかどうか、Wilcoxonの検定を用いた。

(4) 対象者

対象者は、大阪府の精神科病棟に勤務する看護師のうち、本研究に同意し参加した者とし、除外基準は設定しなかった。

(5) 倫理的配慮

本研究の開始に先立ち、研究者の所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 対象者の基本属性

本研究の参加者は18名であったが、脱落者やデータ入力不備者を除くと、最終的に本研究の分析対象者は、15名となった。

分析対象者の平均年齢は、37.46 (SD=±10.70) 歳であった。対象者の性別は、男性6名、女性10名であった。臨床経験の平均年数は、13.27 (SD=±10.01) 年、うち精神科経験年数は8.33 (SD=±9.36) 年であった。

(2) 本プログラムの有用性評価

初回調査におけるストレンクス志向の支援態度尺度・一般性セルフエフィカシー尺度得点の正規性について検討した結果、正規性が証明されなかったため、プログラム実施前後の得点に向上がみられるかどうかについて、Wilcoxon の検定を用いた。結果、一般性セルフエフィカシー尺度得点については、有意な変化は認められなかったが、ストレンクス志向の支援態度尺度得点については、実施前に比べ実施後に有意に向上した ($p<.05$)。

また本プログラムに関する評価については、参加したことへの満足、ストレンクスに関する知識の獲得、実践へのイメージ化ができたかどうかに関する全質問項目において、全対象者が非常に思う、あるいはやや思うと回答した。

(3) 今後の課題

今後もデータを蓄積し、その知見を国内外で発表することにより、本トレーニングプログラムを洗練させる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Matsuda Mitsunobu, Kohno Ayumi	4. 巻 20
2. 論文標題 Development of a blended learning system for nurses to learn the basics of psychoeducation for patients with mental disorders	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Nursing	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12912-021-00677-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田光信、河野あゆみ	4. 巻 43（5）
2. 論文標題 地域で暮らす精神障害者の視座による訪問看護の支援内容とその価値	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 835-845
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15065/jjsnr.20200528092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野あゆみ、松田光信	4. 巻 16
2. 論文標題 看護師による統合失調症患者本人への心理教育に関する知識を修得するための eラーニングシステム構築過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪市立大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野 あゆみ, 松田 光信	4. 巻 38（3）
2. 論文標題 セラピューティックレクリエーションに参加した統合失調症患者Z氏の他者と交流する意欲の変化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumi Kohno, Mitsunobu Matsuda	4. 巻 32
2. 論文標題 Willingness to Interact After Therapeutic Recreation in a Patient With Schizophrenia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archives of Psychiatric Nursing	6. 最初と最後の頁 12~18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.apnu.2017.09.009	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 地域で暮らす精神障害者が抱く訪問看護への期待とリカバリーステージとの関連
3. 学会等名 日本看護研究学会第46回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 心理教育セミナーに参加する看護師のレディネスの特徴と関連要因
3. 学会等名 日本看護研究学会第46回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤史教, 河野あゆみ, 松田光信
2. 発表標題 精神科訪問看護師の看護実践の内容および課題と展望
3. 学会等名 日本看護研究学会第46回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 精神科訪問看護の質向上への達成動機づけプログラムの実践的評価
3. 学会等名 日本看護科学学会第40回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高倉 永久、松田 光信、河野 あゆみ
2. 発表標題 「精神障害者のストレングス」の概念分析 中間報告
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第29回学術集会(愛知県)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大平幸子、松田光信、河野あゆみ
2. 発表標題 精神障害者のレジリエンスの概念分析 国内文献の結果
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第29回学術集会(愛知県)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayumi Kohno, Mitsunobu Matsuda
2. 発表標題 Characteristics of Home-visit Psychiatric Nursing in Japan -2- Problems Encountered by Nurses in Clinical Settings
3. 学会等名 International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses 21st Annual Conference(米国、シャーロット)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsunobu Matsuda, Ayumi Kohno
2. 発表標題 Characteristics of Home-visit Psychiatric Nursing in Japan -1- Home-visit Nursing Activities as Recognized by Nurses
3. 学会等名 International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses 21st Annual Conference(米国、シャーロット) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ、佐藤史教
2. 発表標題 交流集会3：精神障害者との共生社会の実現を目指す看護の姿勢～精神医療における心理教育の実践から～
3. 学会等名 日本看護研究学会 第44回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ、佐藤史教
2. 発表標題 共生社会の構築を支える心理教育の姿勢
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第28回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayumi Kohno, Mitsunobu Matsuda
2. 発表標題 Usefulness of a Blended Learning-based Psychoeducation Practitioner Training Program
3. 学会等名 19th International Mental Health Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ、檜垣孝文
2. 発表標題 「心の病をもつ人々の暮らしを支える心理教育のちから」
3. 学会等名 第2回ひ乃木産学連携地域支援事業（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野あゆみ、松田光信
2. 発表標題 統合失調症患者に対する看護師版心理教育の有用性検討～服薬に関する意識ならびに知識の変化～
3. 学会等名 第27回日本看護科学学会学術集会（宮城）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田光信、河野あゆみ
2. 発表標題 心理教育実践者の姿勢を構成する要素の検討
3. 学会等名 第27回日本看護科学学会学術集会（宮城）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 編著 / 山本勝則、守村洋	4. 発行年 2023年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 328
3. 書名 看護実践のための根拠が分かる精神科看護技術（第3版）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	松田 光信 (Matsuda Mitsunobu) (90300227)	大阪公立大学・大学院看護学研究科・教授 (24405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関